

受験生だったあの頃の話

私の高校時代はおおむね楽しい日々だった。だが、もちろん私にも受験生時代があって、合格するまでは大変苦しい日々であった。確かあのあたりから大学入試が多様化しだして、受験生の動きも変わりつつあったと記憶している。覚えているのが現在は女優として活躍している広末涼子の話である。彼女が「一芸入試」なるもので早稲田大学合格を決めたというニュースが高校2年生の時にあって、「試験官の前で芸をするだけで大学に受かるのか…さすが芸能人。」と多少の勘違いをしつつも衝撃を受けた。ちなみに、当時トップアイドル独走状態だった広末某の早稲田入学は大ニュースとなった。「早稲田大学広末涼子入学騒動」という名前でWikipediaに載っているの、興味のある人は見てほしい。その年の受験者は激増したそうで、「そんなの関係ねえ!」と後に叫ぶ小島よしおも、広末を追って一浪の後に早稲田に入学している。しかし、散々大騒ぎした広末某は入学式にも現れず、2ヶ月後ぐらいにキャンパスに現れたが、その後大学にほとんど顔を出さずに「女優業に専念したい」と言って退学した。「なんだったんだろう」という騒動であった。東北地方でいうと、私が3年生の時に仙台の某私立大学が現在の総合型選抜の前身である「AO入試」を導入した。今でこそこの大学でも実施しているが、当時はセンセーショナルな受験スタイルで、かなり多くの高校生が受験したのではないだろうかと思像する。とにかく、学力試験に頼らずに大学に合格できる時代、大学(を選ばなければとりあえず)全入(できる)時代の到来だった。そんな時代の波にも乗らず、私は受験生として課外を受けたり仙台の予備校の講習に通ったりした。模試の成績に一喜一憂し、放課後は教室か図書館にいた地味な受験生である。だんだん寒い季節になると、指定校推薦で大学が決まったクラスメイトが増えて、それまでは評定にかじりついていた友人達は、手のひらを返すように解放感を楽しんでいた。授業中はクロスワードパズルに興じ、休み時間はフォーラスのバーゲンに行く話か、一人暮らしをするためのアパートの話である。一般受験組で頑張るつもりだった友人も、途中でどこぞの指定校の誘惑にとりつかれ、戦線離脱していった。はっきり言って地獄であった。もっと配慮してほしいところだが、「親の目から離れて東京で一人暮らし」という自由になる権利を早々と手にした女子高生達にそんな気持ちはない。そこから逃げるように仙台の予備校に通った。ピリピリして決して良い雰囲気ではなかったが、同じように受験に立ち向かおうとしている人たちの中にいるのは安心した。講習が終わり、帰りの電車を待つ間は、いつも駅地下のロッテリアでポテトとココアを頼んで勉強した。有線放送では当時流行っていたaikoの「カブトムシ」がひたすら流れていた。だから今でも私は「カブトムシ」が大嫌いである。

そんなふうにも私にも苦しい時代があったということである。でも、あの苦しい時代があったからこそ、その後に待ち構えていた「もっと苦しいこと」も乗り越えていけたのだろう。大学を卒業した私は、その後8年間も教員採用試験に受からず苦しんだ。当時の福島県教員採用試験は今より倍率が高く、「本当に合格する人なんているんだろうか」と思ったほどだ。周りでは諦めて別の職業に就いたり東京を受験したりする人もいたくらいである。でも、それでも諦めずに粘り強く勉強し受験し続けた。そして今がある。今、君たちは受験勉強で苦しんでいるかもしれないが、君ひとりが苦しんでいるわけではない。私も含めた過去の高校生も同じように苦しんだし、きっと未来の高校生も苦しむはずだ。そしてその苦しみは、必ず、どんな形であれ、報われるときが来る。それを信じて、ひたむきでいてほしい。

(1組担任 星充子)

11月の行事予定

- 土曜課外 5日、12日
1日(火) 学校へ行こう週間(1~3校時公開授業)
3日(木) 文化の日
17日(木) 自動車学校入校説明会
21日(月)~25日(金) 第2学期期末考査(これで最後)
23日(水) 勤労感謝の日
26日(土) 全統共通プレテスト

学校推薦型選抜の人はエントリー&受験の月です。

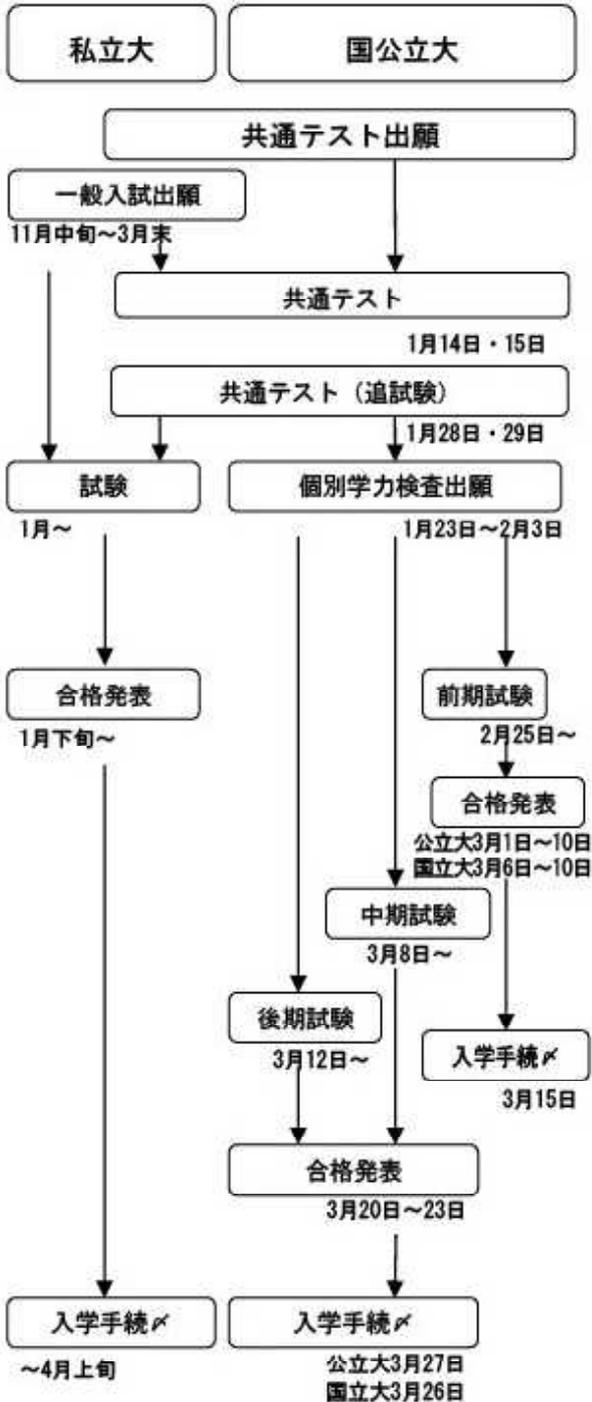


引き続き感染症対策に努めましょう。

インフルエンザも流行する季節になってきます。体調を崩し、最悪な状態で大切な日を迎えることのないようにしましょう。自分のために、皆のために。

事前準備は確実に!!! 入試スケジュールについて

●入試スケジュール (2023年度入試) ●



上記のスケジュールからも明らかなように、2月以降は大変ハードな日程になります。体調管理や受験計画などについて、少ない時間の中で話し合うことが必要になります。

国公立大個別学力検査について

～最後まであきらめないことが合格につながる～

一般選抜の場合、国際教養大など一部の大学を除くと「前期日程」「中期日程」「後期日程」の組み合わせで最大3校の受験が可能です。しかし、前期日程で合格し、入学手続きを取ると、他の中・後期日程を受験していても合格対象にはならないため、第1志望校は前期日程で受験することが一般的です。

後期日程については、定員が少なく志願倍率が高くなる傾向にありますが、実際は前期日程合格者が受験しないことも多いので、合格のチャンスは決して小さくはありません。また、前期日程から後期日程の間は2週間以上もあり、弱点分野の克服なども可能です。

特に国公立大を志望している場合は、私立大合格だけで安心せずに、最後まで国公立大をめざすことが重要です。最後まであきらめないことが希望進路実現への近道なのです。

私立大入試について

～情報収集が希望進路実現のカギ～

私立大については、2月以降に出願できたり、地方入試(学外試験)や方式別入試など、様々な入試のスタイルがあります。情報収集をこまめに行うことが希望進路実現につながります。

いざというときに困らないように、私立大入試スタイルの主な例をご紹介します。

- 試験日自由選択制…同一学部・学科で、試験日を2日以上設定し、受験生の都合のよい日に受験できる制度。
- 方式別入試…同一学部・学科で、入試科目や配点などが異なる複数の選抜方法から選択して受験できる制度。
- 全学部統一入試…学部ごとの試験日のほかに、全学部の入試を同一日に一斉に行う制度。
- 地方入試(学外試験)…大学の所在地以外の地域に試験会場を設けて行われる入試。

最後に ～受験計画は親の同意が必要～

大学進学には経済的な負担も伴います。受験料のほかに、交通費・宿泊費などが発生しますし、合格が決まれば入学金や授業料、場合によっては下宿費用、私立大では一時金などの支払いについても考えなければなりません。そのため、「どんな大学を、何校受験するのか」といった受験計画については、親子で十分話し合い、親の同意を得ておく必要があります。